

S. K. 日本語日本文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私が留学を目指したきっかけは2つあります。1つは、留学する1年前に行ったロンドンでの3週間の語学留学です。この時は英語が全く理解できず、留学生や現地の人ともろくにコミュニケーションが取れませんでした。この語学留学を経験して、英語を使って色々な人と喋れるようになりたいという思いが強くなり、この交換留学を考えました。2つ目のきっかけは、ロンドンという街に魅了されたことです。ロンドンには様々なバックグラウンドを持った人々が住んでいます。私は異文化について興味があったので、色々な国籍の人たちが生活し、又知り合うことのできるロンドンは私にとって魅力的でした。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

ひたすら IELTS に向けての勉強をしました。IELTS を受けたことがなかったので、過去問を解くことに集中しました。また、自分の知っている単語を増やすために、どこでも単語帳を持参し、常に単語に目を通していました。教材は様々なものがあると思いますが、過去問を載せた教材で勉強してテスト形式に慣れておくといいと思います。また英検準1級や1級あたりの教材も Reading 強化の為に使用しました。

③ 留学決定から出発までの準備期間（語学勉強、ビザ申請手続きなど）

イギリスの大学は Reading の宿題が多く、Essay を沢山書かせると聞いていたので、Reading や Writing に力を入れていました。例えば BBC のニュースを要約した後、自分の考えを英語でまとめて短い Essay を作るなど、1つの教材で両方の対策が出来るようにしていました。Speaking や Listening は英語のニュースを YouTube で見たりしていました。

④ 現地到着後（空港からの移動手段・時間、オリエンテーション、諸手続きなど）

空港からの移動手段は学校のシャトルバスでした。(約30分)大学に着くと Royal Holloway の学生が自分の部屋まで案内してくれました。様々な手続きがありましたがオリエンテーションで説明されるのでそれに沿って手続きを済ませました。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

語学研修では9割が中国人でした。この期間に飛び交う言語はほぼ中国語で、イギリスやヨーロッパの人と英語で話す機会はほぼありませんでした。長文の Essay を書くことには慣れていきますが、Speaking や Listening 力はあまり上がったようには思わなかったです。特に最初の約3週間の PELP1 は内容が易しいのですることがないです。この期間は London 観光や One day trip などを行いました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容は主に Writing に力が入っていたように思います。課題はほぼ毎日短い Essay が出されました。試験はまじめにやれば滅多に落とされることはない、と聞きました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

スーパー、郵便局や駅は徒歩 15 分程のところにあります。バスも利用できますが頻繁には来ません。キャンパス内には週 1 でマーケットが開かれていて、新鮮な食料がいっぱいあります！ですが値段重視ならスーパーのほうが安いです。

大学内には図書館や食堂があります。図書館は広く勉強できるスペースが沢山ありますが試験前には人でいっぱいになります。

◆ 履修科目

政治学と国際関係学を学びたかったので国際関係学部の科目を 2 つと、留学生用の授業を 2 つ取りました。

- **CE1701 Contemporary Britain Government and Citizenship**

イギリスの政治の歴史や現代政治について学ぶ授業です。

- **CE1751 Contemporary Britain: Class, Power and Social Change in the Arts**

イギリスの芸術（映画、詩、絵など）を通して階級制度や社会的変化について学ぶ授業です。

- **PR1400 Introduction to Politics and Government**

政治について幅広く学ぶ授業です。民主主義、政治的権利や国々の政治形態について基本的なことを学びます。

- **PR1500 Introduction to International Relations**

リアリズムやリベラリズムなど政治的思想から WW I や WW II について学びました。

◆ 授業、レポート、定期試験

ゼミのクラスではディスカッションをすることが多々ありました。最初は話すスピードについていくことが出来ず、他の人が何を話しているのかほとんど理解できませんでした。途中から喋るスピードに慣れていき少しずつ理解できるようになりましたが、ディスカッションで意見を言うのは最後まで苦手でした。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

女子フットボールクラブに入りました。プレーをしていく中でみんなとコミュニケーションが取れるようになり、友達が少しずつ増えていきました。課題が沢山あったので大変でしたが、クラブに入ると友達は増えるし気分転換にもなるのでクラブに入るのは本当にお勧めです。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

キャンパス内の寮に住みました。私が住んでいたところは部屋にシャワーがついていて、

キッチンのみが共有でした。食事は殆ど自炊をしました。寮の設備は様々で、シャワーが共用のところもありますしルームシェアのところもあります。壁の厚さも様々です！

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇の課題として幾つか Essay が出されましたが、1 週間程で全て終わらせてヨーロッパ旅行に行きました。クリスマスシーズンだったのでクリスマスマーケット巡りをしました。フランス、ドイツ、チェコ、オーストリアと旅をしましたがどの国も良かったです。11 月、12 月は寒くて日が短いですがクリスマスの時期の旅行は絶対絶対お勧めです！！

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

留学した次の年は休学する予定だったので、何もしてませんでした。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

大学のフットボールクラブでの活動です。練習や試合だけでなく、クラブ内でイベントも沢山あったので時間がある時は参加していました。また沢山の国を旅行したことも楽しかったです。どの国もそれぞれ魅力があり、旅をしている時に会った素敵な人達も自分が見た沢山の素晴らしい風景も全てが思い出に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

前述したように学部科目でのゼミのディスカッションが本当に辛かったです。他の生徒が流暢な英語で積極的に意見を言うので、それを聞き取るのに精一杯になってしまい自分の意見を上手く言えませんでした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化・習慣のことではないですが、駅員や店員のひとりひとりのサービスが違うことに驚きました。フレンドリーで親切な人もいますが、そうでない人も多いです。同じ質問をしても人によって対応が全く違いました。何か質問をして一度相手にされなくても、他の人にもう一度尋ねたら親切に対応してくれたことが何度もありました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点→比較的治安がいいこと。

悪かった点→駅が遠いので不便。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン、スマホ、シリコンスチーマー、ラップ、お箸

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

一年間の留学を通して、語学力のレベルアップはできたと思います。また留学中に色んな

コミュニティーに飛び込んだので語学以外で学ぶことも多かったです。

④ これら留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

少しでも興味があるのならば是非チャレンジしてほしいです！勉強に対して不安を持たれている方もいると思いますが、私でもなんとかやってきたので絶対大丈夫です！！留学すると語学力が上がるのは勿論ですが、何より現地で沢山の良い出会いがありとっても楽しいです！！

IV. 将来の目標

①今後の進路、将来の目標・夢

はっきりとした進路はまだ考えていませんが、インバウンド事業に興味を持っています。

V. 写真



女子フットボールクラブのクリスマスパーティーの時の写真です。クラブのみんなと一緒にディナーを食べました。

S. M. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は小さい頃から英会話教室に通っており、英語がとても好きでした。その時の先生がイギリス出身だったのでイギリスに興味を持つようになりました。そして中学の頃から留学に興味が出始め、大学に入ってから本格的に留学を目指すようになりました。大学内で実施された TOEIC や TOEFL を積極的に受けていました。また留学先はイギリスと決めていたので、2年次には IELTS の勉強を始めました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

IELTS 実践トレーニングという教材を使っていました。これを一通りやって、同じテキストをずっと使っていました。色々なものを試すより一つのものをやり込む方がいいと思います。それ以外は特に何かをしていたわけではありません。

③ 留学決定から出発までの準備期間

私の場合は1年の協定留学でしたが、期間が6月17日から12月11日の6か月間だったので、事前に日本でビザの申請をする必要がなく、イギリスの空港の入国審査のカウンターにて Student Visitor Visa というスタンプを押してもらいました。それがビザになります。その際は留学先大学からの入学を証明する書類提示が必要です。また入国カードも書かなければなりません。入国拒否やスタンプを押してもらえないことはまずないと思いますが、入国審査の受け答えはきちんとした方がいいと思います。留学までの準備期間では早期出発届を出して叔母のいるドイツで大学の英語学科の講義を受けていました。留学が決まってからも英語学習は続けた方がいいと思います。

④ 現地到着後

RHUL のホームページにヒースロー空港から大学までシャトルバスで送迎してくれるサービスがあったので、それに申し込みました。空港から大学までバスでおよそ40～50分程ですが、初めてで何もわからない状態だったのでこのサービスを利用してよかったと思います。その際バスを一緒に待っていた台湾の子と仲良くなりました。到着早々友達ができて、とても心強かったです。

到着後の手続きとして、翌日にオリエンテーションがあり、それが済むとすぐに授業が始まりました。しなければならない手続きは NHS の登録です。イギリスでは公立の病院では無料で診断を受けることができるのですが、その際 NHS というものに登録する必要があります。6か月以上の滞在であれば登録可能です。大学内の病院で簡単に登録することができます。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学研修は大学内で行われました。ちょうど夏休みに行われるので大学内のほとんどの施設が閉鎖しており、キャンパス内は留学生のみで閑散としていました。勉強する環境としては静かで良かったと思います。この時の留学生の約 80% は中国人で、あとは日本人や韓国人、ブラジル人、ロシア人、フランス人などが 1% ずつぐらいでした。

◆ 授業内容、課題、試験

語学研修は 3 つのパートに分かれており、パートが進むにつれて内容も難しくなっていきます。テキストはパート 3 で使うものとパート 1 と 2 で使うものが異なりました。ライティングとリーディング、スピーキングとリスニングの授業が毎日午前と午後に分かれてありました。パート 1 では基礎をやっていて個人的には簡単な印象でした。またライティングの練習としてショートエッセイ提出が週 1 回あり、それぞれ点数がつけられフィードバックがもらえます。そして各パートの最終週にエッセイ提出、リスニングテスト、プレゼン発表があります。パート 1 と 2 は練習なので、点数はあまり関係ありませんが、パート 3 では正規授業に進むためにここで基準点を満たさなければなりません。全体で 40% を満たせば合格です。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

キャンパスは非常に大きく、授業が違う建物で行われる場合は移動が大変でした。しかしカフェや食堂が充実していて、また軽食を売っているミニスーパーのようなショップやタバがあったのでとても便利でした。

◆ 履修科目（決定までのプロセス、具体的に履修した科目名とその内容）

私は 4 つ授業を取っていて、2 つは国際関係、あと 2 つは留学生向けの授業でした。個人的に 4 つは割と大変で、3 つが丁度良かったのではと思っています。

・ Contemporary Britain: Government and Citizenship

これは留学生向けの授業です。主に近代のイギリスの政治についてで、特に興味深かったトピックとして EU とイギリスの関係性についてや、難民問題など今話題になっている時事問題を取り上げていました。

・ Contemporary Britain: Class, Power and Social Change in the Arts

こちらも留学生向けの授業です。近代のイギリスの文学や美術、映画についての授業です。それらの作品を当時の時代背景から作者や著者は何を訴えているのかを分析したりしていました。毎学期テーマは変わりますが、主にイギリスについて知ろうという内容です。

・ Introduction to International Relations

これは国際関係の授業です。第 1 次、第 2 次世界大戦を色々なセオリーに基づいて、なぜ起きたのかを様々な観点から分析していく内容でした。

• **Introduction to Research Methods in Politics and International Relations**

これも国際関係の授業です。政治的問題をどう理論立てて調査し分析していくかという内容でした。この授業ではシリア難民問題について取り上げていました。

◆ **授業、レポート、定期試験**

• **Contemporary Britain: Government and Citizenship**

• **Contemporary Britain: Class, Power and Social Change in the Arts**

それぞれ週 2 回授業があり 1 回目は 1 時間のレクチャー、2 回目は 2 時間のセミナーがありました。レクチャーでは毎週新しいトピックを取り上げ、セミナーでより深く掘り下げていく感じでした。セミナーはディスカッションがメインでした。またそれぞれに 3 つの課題が学期末にあり、エッセイ提出、プレゼン発表、そして授業中のライティングテストがありました。

• **Introduction to International Relation**

1 時間のレクチャーとセミナーがありました。これもレクチャーの内容をセミナーで深く理解していくというものでした。セミナーは主にグループワークが中心でディスカッションが多かったです。課題としてポートフォリオの提出がありました。

• **Introduction to Research Methods in Politics and International Relations**

これも 1 時間のレクチャーとセミナーがあり、これもセミナーでレクチャーの内容を深めていくという感じでした。課題はエッセイ提出が 2 回ありました。定期試験はありませんでした。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

私はボランティアに参加していました。一般のボランティア団体ではなく RHUL の学生が運営しているものでした。ボランティアにも色々あって、キャンパス内のゴミ拾いや、ガーデニング、または老人ホームを訪ねてインターネットの繋ぎ方やメールの使い方など簡単なパソコン操作ができるようにサポートするという活動をしていました。また月 1 回にご老人の方をキャンパスに招きティーパーティーを開いていました。自ら進んでできるのでとてもやりがいがありました。正規科目履修が始まると、色んなソサエティーのブースが設けられるので、その時を利用して色々なソサエティーを見学したり、話を聞きに行くのも良いと思います。私は色んなソサエティーの Free session に参加しました。入る前に必ず trial があって、どういうソサエティーか、自分に合うかどうかを体験できます。またソサエティーに入っていないなくてもそれぞれのソサエティーのイベントに参加できたりもします。ソサエティーによって入会金を支払わなければならないので、私は入会せず興味のあるイベントだけに参加していました。イベントの情報は Facebook からチェックすることができます。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

語学研修期間と正規科目履修期間はそれぞれ違う寮に住んでいました。語学研修期間は、Wedderburn という寮で、正規科目履修期間は Runnymede という寮でした。どちらも一人部屋でトイレ・シャワー付き、キッチンのみ共同でした。どちらの寮もキャンパス内にあるので授業のある教室までの移動時間はそんなにかかりませんでした。寮は希望を出すことはできますが、自分で決めるのではなく大学の方で指定されました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

語学研修終了後、正規科目履修が始まるまで約 2 週間の夏休みがあったので、それを利用してイギリス国内を旅行しました。大学がロンドンから 40～50 分と近いのでどこへ行くにも交通アクセスがよく、日帰りでも十分行けるところが多かったです。国外には行っていません。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

全くしていなかったです。今思えばしておけばよかったなと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

色んな国の友達ができただけです。本当に人には恵まれていたなあと感じます。友達とロンドンに行ったり、買い物に行ったり、ミュージカルを見に行ったりなどとても楽しかったです。また学内外のイベントに参加し、たくさんの人と知り合えたことが思い出に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

つらかったのは正規授業が始まってからです。周りのレベルが高く、ついていくのに必死でした。ディスカッションでは発言できないことも多かったです。毎回の予習の量が多いのも大変でした。また、常にエッセイに追われている状態でした。やはりネイティブの中に混ざって授業を受けるのは思っていた以上に難しいことなんだなと実感しました。自分の英語がまだまだだと気づかされるのと同時に、やる気にもつながったので、いい経験になりました。また正規科目履修期間のフラットメイトとあまりうまくやっていけなかったのはつらかったですね。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

よく授業の合間にリンゴを丸かじりしている子たちを見かけました。ナッツ類を食べている子などもいました。私もリンゴの丸かじりを真似しようとしていましたが、いつになっても慣れません。またイギリスは天気が変わりやすく、晴れていても突然雨になったりしました。しかし雨が降っていても傘をさしている人はほとんど見かけませんでした。レストランでの支払いはテーブルの上で済ませるのが基本でした。日本だとレジまで行ってお会計をするのが普通だと思っていたので、最初は少し戸惑いました。さらに欧米の子

ちは本当にパーティーが好きなんだと驚きました。特に金曜の夜はどの寮でもパーティーで大騒ぎでした。さらに大学内にクラブやバーがあったことにはびっくりしました。本当に何でもありの大学でした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

キャンパスが非常に大きくて寮もキャンパス内にあるので、キャンパス内から出なくても生活できました。図書館が24時間空いている点は非常に良かったです。しかしエッセイ提出前やテスト前などは常に満席状態で、席を確保することが難しかったです。またキャンパス内で喫煙が許可されているので、歩き煙草をしている生徒が多数いてそれは少し不快に思いました。また、私はターム1のみの留学だったので取れる科目が限られており、とても少ない選択肢の中からしか選べませんでした。取りたい科目等があっても希望が通らないこともありました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは絶対に持参した方がいいと思います。大学内の図書館でもパソコンが使えるのですが、エッセイ提出前やテスト前などは常に満席で空いてない状態でした。あと持っているのであればiPadなどのタブレットがあれば便利だと思います。あと電子辞書もあればエッセイを書くときなどに役に立ちます。その他は常備薬ですね。留学中何度も風邪を引き、現地の薬を買うにしてもどの薬がいいとか自分に合うかどうかなどがわからなかったものであった方がいいと思います。それと化粧水や乳液は海外のものだと肌に合わなかったりするのでこれらも持って行って損はないです。大抵のものは現地で買えるのでそんなに持って行く必要はないと思います。何かいるものがあれば日本から郵送してもらうことも可能です。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

まだTOEICなどのテストを受けていないので、実際にどれくらいの英語力がついたのかはわかりませんが、スピーキングとリスニングが確実に上がったと思います。毎日の生活の中で鍛えられました。まずこの2つができないと会話もできませんから。ライティングに関しては留学中にこれでもかというほど書いたもので、留学前と比べると使う単語や表現の仕方などはよりアカデミックなものになっていると思います。リーディングはたくさん読んだので、英文を読むのが苦にならない程度にはなりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に少しでも興味があるならチャレンジしてみてもどうでしょうか。絶対にいい経験になります。英語力が伸びるのはもちろんですが、それだけではなく、色んな文化やバックグラウンドを持つ人たちと出会うことでコミュニケーション能力を養うことができますし、

物の考え方や視野が広がると思います。友達もたくさんできますよ。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後の進路は、できれば英語を必要とする場で働きたいと思っています。せっかく留学に行って良い経験をさせてもらったので、それを活かしていきたいです。また英語学習はこれからも続けるつもりです。将来はまたイギリスに戻りたいと思っています。

V. 写真



これは学校内のパブでの1枚。このメンバーでよく遊んでいました。



これは語学学校時のフラットメイトとの写真です。月に1度、一緒に映画を見たりご飯を食べに行ったりしていました。一生の友達です。